

「Hotel California」、生涯で1番好きな曲

18~19才の頃はどんなに小さな仕事でも、飛んで唄いに行きました。音楽以外の仕事はしないと決めていたので、仕事を選ぶ贅沢はできません。譜面が苦手なのにスタジオ仕事をしてしまうという無茶ぶりで、なかなかOKを貰えないときはほんとに申し訳なくて、苦しかったなあ。でも唄っていただけることが嬉しかった!「およげ!たいやきくん」が町中に流れ、私より後の第10回ポップコンで登場した中島みゆきさんや因幡晃さんが次々と大スターになる中で、私はガサゴソと駆けずり回って生きていました。売れた人と売れてない人はすべてが違うけど、私は16歳から制作室でこういう現実を見てきていたので、焦りも嫉妬も感じず「私は私」つて妙な安定感がありました。

当時の日本のヒット曲は因幡さんやみゆきさんはもちろん「なごり雪」「木綿のハンカチーフ」「横須賀ストーリー」などで、ジュリーもソロ活動を始めた頃かな。書ききれないほどの名曲があります。だけど私は洋楽志向でした。音楽活動に目覚めた入り口はフォークソングを聴いたことですが、大川栄策ファンの父はTennessee Waltz、Johnny

Guitarといったアメリカの歌謡曲も好きで、子供の頃からよく聴かせてくれました。昔のステレオは大きくて床の間を占領していました。団塊世代の姉は布施明やザ・ピーナッツもTom JonesやThe Beatlesも何でもよく聴いていました。シャボン玉ホリデーやSoul Trainというテレビ番組も姉と一緒に見たなあ。私はRoberta FlackとDonny HathawayのLPレコードに感激、合歓の郷では洋楽のAからCまで聴きまくり、ロック好きの友人からはPink FloydやLed Zeppelinを教えてもらいました。カッコ良かった〜!「狂気」というアルバムタイトルに痺れました。このタイトルを付けた人は数年後に私のプロデューサーになり、またまた痺れました。70年代中頃の洋楽はQueenやABBA、Santana、Olivia Newton-Johnなどの曲だったかな?中でも私はWest Coastのサウンド、とりわけThe Eaglesが好きで「Hotel California」はきっと生涯で1番好きな曲です。あの後半のギターパートは何度聴いても鳥肌を立てて泣いてしまいます。The Doobie Brothersもいいよね。コネで貰った

ジャズボーカリスト
星乃けい

officialwebsite
<https://www.hoshinokei.com>

Michael McDonaldのサインは今も宝物〜。CarpentersやBoyz n the Scaggsの曲は時々唄うのですがリアルタイムで体験した曲はいいね!私はJazzのスタンダードナンバーといわれる名曲の時代にはまだ生まれていなくて、とても残念です。新しく担当になった名ディレクターの萩原さんは日本の音楽シーンに数々のヒット曲を送り出した人ですが、元は有名なロックギタリストなので洋楽志向。これまで制作室で過ごす事の多かった私は、担当ではない時から彼と音楽の話をするのが楽しみでした。ここがいいんだよね〜っていう心の震える場所が同じ人なので、私は自然体のまま彼の下でデビューすることになりました。



Kei Hoshino

2005年12月14日、ジャズシンガーとして待望のリーダーアルバム「NEARNESS OF YOU/星乃けい」、2006年12月20日「IN A SENTIMENTAL MOOD/星乃けい」をリリース。ジャズファン、ジャズメン、オーディオファンから高く評価支持される